

エンターテインメント・ロイヤーズ・ネットワーク(ELN)

第16回 シンポジウム

AI・ロボットとエンタテインメントの未来 ～権利・責任・契約・ガイドライン～

AIが社会の様々なデータを解析・学習して、新たなコンテンツを生み出すことは完全に定着した。それは、音楽・新聞記事・キャラ・マークの自動生成や映像・画像の自動加工など、エンタテインメント・メディアの領域でも既に商用化が進んでいる。合わせて、広義のロボット技術が人間の「身体性」を拡張する場面も増大している。ボーカロイド・Vtuberは言うまでもなく、映像加工により故人となったスターが俳優として映画に出演したり、文豪など著名人がアンドロイドで蘇ることも珍しい光景ではない。

しかし、著作権・肖像権など開発の壁になる権利の課題、AIコンテンツ・バーチャル人格などの成果にかかる権利、更にはAI・ロボットによる著作権侵害や名誉毀損といった様々なリスクに関する議論は、未整理のままである。日本はこの分野の議論を世界でも早期に開始したが、なお多くの問題は検討途上で、現場では手探りが続いている。

そこで、我が国におけるコンテンツ自動生成、AI・ロボット法学、法実務それぞれの分野の第一人者を招いて、現状の課題やあるべき契約・ガイドラインの姿を考え、AI・ロボットとエンタテインメント法務の未来を探る。

日時

5月25日(土) 13:15~16:30

場所

朝日生命大手町ビル24階 サンスカイルーム

千代田区大手町2-6-1朝日生命大手町ビル

入場無料 (会員以外の方もご参加頂けます)

出席される方は、下記受付フォームにてご連絡ください。

<https://reserve.movabletype.io/j-eln.html>

登壇者

(順不同・敬称略)

宍戸 常寿

(東京大学教授、総務省AIネットワーク社会推進会議メンバー、有斐閣『ロボット・AIと法』編者)

野口 祐子

(グーグル合同会社 執行役員法務部長、弁護士)

菱山 豊史

(クリプトン・フューチャー・メディア株式会社)

松村 将生

(株式会社エクサウィザーズ、元内閣府知的財産戦略推進事務局参事官補佐、弁護士)

コーディネーター 福井 健策

(骨董通り法律事務所代表パートナー、ELN理事、弁護士)

特定非営利活動法人
エンターテインメント・
ロイヤーズ・ネット
ワークはメディア、
エンターテインメント分
野で活動する弁護
士、実務家による全
国組織です。

ELN事務局

<http://www.j-eln.org/>
E-mail: info@j-eln.org

取材ご希望の方は、事前に事務局までお申し込みを頂きますよう、お願い申し上げます。